

好生館だより

2010.6

第9号



佐賀県立病院好生館

設立の理念

「好生の徳は民心にあまねし」
「学問なくして名医になるは
覚束なきことなり」

基本理念

「病む人、家族、そして県民の
ここに添った
最良の医療をめざします」

基本方針（目標）

1. 患者中心の信頼される医療
2. 良質で安全な高度医療
3. 救急医療の確保と地域連携の医療
4. 教育の重視と人材の育成
5. 経営努力による経営効率の改善

目次

- 設立理念、基本理念 1ページ
- 理事長・館長・看護部長挨拶 2ページ
- 診療科紹介：耳鼻いんこう科、皮膚科
..... 3ページ
- 看護部だより（職場紹介）：8階東病棟、
8階西病棟 4ページ
- 好生館ニュース：健康講座 5ページ
- 好生館ニュース：患者情報及び
医療連携システム 5ページ
- 新任医師の紹介 6ページ
- 豆知識：知って得するお薬の話
..... 7ページ
- 新病院の進捗状況 7ページ
- 外来医師一覧表 8ページ

佐賀県立病院好生館

〒840-8571 佐賀市水ヶ江一丁目12番9号

T E L 0952-24-2171(代表)

F A X 0952-29-9390

<http://www.koseikan.jp/>

理事長挨拶



理事長
十時 忠秀

佐賀県立病院好生館は、平成22年4月1日をもって地方独立行政法人の病院として新しい歩みを始めることになりました。

病院の自主性・自律性をいかして、医療サービスの向上や効率的な運営を実現するためです。

私の恩師古川哲二佐賀医科大学初代学長は30年前、「大学は一部法人化したほうがいい。それが活性化につながり、時代の変化に対応しやすい」当時は何を言っておられるのが、まったく理解出来ませんでした。今思い起こすと先生の先見の明に驚かざるを得ません。

国立大学と国立病院は平成16年4月1日つまり6年前に法人化しました。そして患者さんに優しい、いい病院に生まれ変わりつつある事は衆目の認めるところです。

新県立病院の目指すところは、時代の変化に対応し、良質で高度な医療を安定的、継続的に提供するとともに、地域医療における役割を果たし、患者、家族、医療人（医療関係者）誰からも信頼され温かみの感じられる病院、県民と協働する病院です。

法人化しても県民のための病院である事に変わりはありません。患者さんが、地域がどのような病院を必要としているかという視点に立って、医療の提供を行い、県立病院が独立行政法人になって本当によかったと実感していただけるよう、職員一丸となって取り組んでいきます。

館長挨拶



館長
榑木 等

中庭の櫻が今年も見事で、春の出会いと別れの悲喜交々を見守ってくれました。4月5月は臨床研修医を初め多くの新しい職員を迎え、慌ただしさの中にも、初々しい雰囲気があります。

今年は診療報酬改定の年で10年ぶりのミクロのプラス改訂でした。内容的には急性期病院、救急医療、小児医療、がん医療などを支援するもので、好生館としては最大に活用したいと思います。

地方独立行政法人として2ヶ月が過ぎましたが、理事長を迎え、新鮮な風が吹いています。好生館が変わらず県民のための病院として、良質な医療を提供するためには、自らが時々に応じて変わって行く必要があります。皆様に好生館が独立行政法人に変わって良かったと思って戴けるように進化し続けます。

今後も救命救急センター、地域医療支援病院、がん診療拠点病院として連携を密にして、患者さんを真ん中にした医療体制を進めたいと思います。従来にも増して皆様のご支援ご鞭撻をお願いいたします。

看護部長挨拶



看護部長
吉原久美子

4月1日、理事・看護部長を拝命いたしました。法人化・病院の新築移転と大きな変化の中で看護部門の安定した基盤をつくる時期であると考えます。看護師の役割は、患者・家族、地域の人々に応じて良質のケアが提供できることです。好生館は看護師の増員を行い、5月より7対1看護体制となりました。患者さんに安全・安楽・自立を考慮した確実な看護技術を提供できるよう努力いたします。今年の看護部のスローガンを“患者さんと目線を合わせて— Together for All”といたしました。病気の回復や自己の健康管理ができるという目標に対し、患者さんも看護師も同じ方向で、合い確かめながらケアを行うという意味です。

佐賀県民・地域の方々から信頼される病院、「好生館の看護はいい」と選ばれる組織づくり、そのためには看護師一人ひとりが確かな仕事をする。そして共に育つ組織をつくるのが私の使命と考えます。地域の方々から愛され育てただけの好生館をめざします。



【診療科紹介】

皮膚科

皮膚科部長 武下 泰三

佐賀県立病院好生館皮膚科の案内をさせていただきます。当科は毎週 月、火、水、金曜日が外来診察日であり、木曜日は手術日で外来診療を行っておりません。湿疹、かぶれ、たむし、水虫などの外来治療が中心となる皮膚病から、入院が必要となる重症の帯状疱疹、皮膚の細菌感染症、薬疹、手術が必要となる皮膚腫瘍などまで、皮膚疾患全般にわたって診療を行っております。

最近、紫外線に対する関心が高まっていますので、説明したいと思います。紫外線は良い面と悪い面の両方を持っています。良い面としては、カルシウム代謝に重要な役割を果たすビタミンDを皮膚で合成する手助けをする働きがあります。悪い面としては、紫外線の浴びすぎは、日焼け、シミ、しわ、などの

原因となるだけでなく、長年にわたり紫外線を浴び続けていると、時には皮膚腫瘍を引き起こすことがあります。悪性の皮膚腫瘍である皮膚がんのすべてが紫外線によって起こるわけではありませんが、顔や手の甲などの長年にわたり紫外線を浴びた場所に皮膚がんが発生することがあります。長年にわたり紫外線をあびたことが関係していると思われる皮膚がんの発生は高齢化社会となり増加傾向になることが懸念されています。紫外線の浴びすぎには注意が必要です。皮膚がんの治療については、他の部位のがんと同様に早期発見、早期治療が大切です。

昔から「皮膚は内臓の鏡」といわれ、皮膚病と内臓の疾患との関連性が注目されてきました。一般に皮膚病の大部分は外的刺激（外因）に対する病的な反応状態ですが、時には、皮膚病を糸口に内臓の病気が発見できることがあります。また皮膚病は、目で見えるため、治療による効果を医師と患者が共有できる利点があります。皮膚に関することなら、なんでも気軽に御相談ください。



【診療科紹介】

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 宮崎 純二

好生館耳鼻咽喉科では、中耳炎、鼻副鼻腔炎、扁桃炎などの炎症性疾患をはじめ、頭頸部腫瘍、外傷、めまい・難聴・顔面神経麻痺など、耳鼻科全般の治療を行っています。当科の果たすべき役割として主なものは、手術・入院が必要な重症患者の受け入れ、救急医療と考えていますが、実際佐賀県で最も多くの手術実績を残している病院のひとつです。

がん治療につきましては、手術、放射線治療、化学療法（抗がん剤治療）が治療の3本柱です。最近では、手術に先行して化学療法と放射線治療を同時に行う化学放射線療法を行うことが多くなりました。これにより、たとえば多少進行した喉頭がんなどでも、声を失うことなく根治できる方の割合が増えています。また、初期の喉頭がんについては、顕微鏡下レーザー手術を導入することで、放射線治療を避け、短期間の入院で、声の質の低

下も少なく治療することができるように配慮しています。また、化学療法については、腫瘍内科の協力を得て、できる限り入院せず外来で化学療法を行うことで、患者さんの負担軽減を図るようにしております。

周囲の医療機関との連携も重視しています。主に佐賀大学と連携を図ることで、がん患者さんに適した最良の医療を提供できるようにしております。近隣の開業医の先生方とは、定期的に会合を持ってスムーズな受診環境を作り、患者サービス向上を図るようにしております。

一方、耳鼻科は機能的な診療科ともいえる特長があります。聴覚、嗅覚、味覚、平衡（体のバランス）など、「感覚器の科」といっても過言ではありません。ストレスの多い社会でこれら感覚器をはじめとした耳・鼻・のどの異常を訴える方も多く、外来には毎日多くの方が受診されます。いまや国民病ともいえるアレルギー性鼻炎（花粉症含む）もそうですが、命にはかかわらないものの、難治性で患者さんの生活の質（QOL）を低下させる疾患が多く存在します。多くの経験を踏まえ、これらの疾患に対しても可能な限り丁寧に対応して参ります。

【看護部だより】

(職場紹介) 8階東病棟

看護師長 川内ひとみ

8階東病棟は、平成22年1月4日から病棟再編されて呼吸器病棟となりました。医師(呼吸器内科3名、呼吸器外科3名、研修医2~3名)をはじめ、看護師27名、看護助手3名、病棟担当の薬剤師2名、管理栄養士1名、理学療法士1名、クラーク1名、医療事務1名で構成され、チーム医療を提供しています。

呼吸器の疾患としては、肺がん、慢性呼吸器不全、肺炎、喘息、気胸などがあげられます。なかでも、肺がんに対しては佐賀県癌拠点病院として重要な役割を担っています。

肺がんの治療においては、検査・処置・診断・手術・治療(化学療法・放射治療など)が病棟再編により同一病棟でなされ、患者さんとの関わりがより深くおこなえるようになりました。呼吸器疾患は呼吸困難という生命の危機を感じさせる症状があり、患者さん自身の不安は図り知れないものがあります。急性期、慢性期、ターミナル期と様々な病態期の患者さんが混在されています。看護部の理

念である『心とところに添う看護』を忘れず、患者さんのその人らしさを大切にしたい温かい看護を提供できるように日々心がけています。

現在は「退院支援」にも力を注ぎ『患者さん、家族が満足できる転院、退院支援』を目指し、対話の中で退院支援計画をおこなうように取り組んでいます。

平成22年4月から独立行政法人に変わりました。看護部も新しい組織体制と変わっています。看護部目標のスローガン『患者さんと目線を合わせて~Together for All~』を掲げ、患者さんとの関わりの中で成長していきたいと思っています。



【看護部だより】

(職場紹介) 8階西病棟

看護師長 宮地由美子

私たちの病棟は肝胆膵内科の病棟です。佐賀県は肝臓死亡1位で肝臓緊急総合対策事情が行われ、当病棟は佐賀の中核・がん拠点病院として重要な役割があります。当病棟は入院延べ患者1160人月平均38.7人(平成21年度)の患者さんを受け入れ、平成21年1月よりベット数40床の肝胆膵内科単科の病棟となりました。

現在医師4名・研修医数名・看護師24名・看護助手2名・ヘルパー・クラーク各1名で構成され、高度で安全安楽な医療の提供を目指し、患者さんの目線に立って看護の見直しを行っています。また患者さんに最も適切な医療が提供出来るよう外科・腫瘍内科・栄養サポート・緩和ケア・相談支援センターとの

連携、病棟スタッフの連携とコミュニケーションを大切にしています。

肝胆膵内科疾患は、治癒する疾患・治療を繰り返し行う疾患・病状悪化のため緊急入院となる病態・病気と共存し社会生活を行っている患者さんなど様々です。当病棟は平均在院日数15~16日と年々入院期間が短くなってきています。その中で患者さんと家族が安心して退院していただくために、入院中からの生活支援を含めた看護が重要と考えています。





【健康講座】

ビブリオ・バルニフィカス 感染症対策について

感染管理認定看護師

富田 泉

今回は、佐賀県でも梅雨時期以降に発生が多いビブリオ・バルニフィカス感染症対策を紹介します。

梅雨時期は、降水量が増加し河口域では海水と真水が交わり海水の塩分濃度の低下が生じます。ビブリオ・バルニフィカスによる健康被害は佐賀県でも報告されています。

感染経路としては、菌が付着した魚介類を生で食べることによって感染する場合や海水

中の菌が皮膚から浸入して感染する場合があります。菌が血液内に侵入した場合、数時間～1日程の潜伏期後、手足の猛烈な痛み、峰巣織炎等の皮膚病変の拡大や発熱、悪寒、血圧低下などの敗血症症状を起こし生命を脅かすことがあります。

健康な方は過敏になる必要はありませんが、肝臓疾患、免疫力低下の基礎疾患、貧血治療で鉄剤を内服している方は、重篤化し死に至る事もありますので、注意が必要です。

注意が必要な方は、夏場の魚介類の生食を控え十分加熱して食べましょう。

また、足などに傷がある場合は、夏場の海水との接触を避け、海岸などの裸足歩きを控えることが大切です。



【好生館ニュース】

地域医療連携システム ぴかぴかリンク (ID-LINK)

副館長 林田 潔

現在、適切な医療はひとつの医療施設において完結して提供されるものではありません。地域の医療施設が、それぞれの機能を有効に発揮して、無駄なく医療資源を活用し、地域全体で最適の医療サービスを提供する**地域完結型医療**が、広く質の高い医療を提供するために望ましい姿だと考えられます。このためには、医療施設間において、適切な医療連携がなされ、十分な医療情報を共有する必要があります。この医療情報の共有と医療連携を目的に整備されたのが、佐賀県のぴかぴかリンクシステムです。

佐賀県の各地域の中核病院を中心に、この地域医療連携システムが整備されており、好生館もこのぴかぴかリンクに参加しています。患者の皆さんの同意を元に、好生館の電子カルテの検査情報、画像情報を、インターネットを通じて、登録医療施設に公開します。好生館で手術やCT等の検査を行い、その後、かかりつけの診療所で、主治医の先生と一緒に写真を見ていただくことも出来、いつでも、検査結果や画像が、その診療所のカルテのように見ることが出来ます。事細かな医療

情報を共有することが出来、無駄な検査を省き、速やかで適切な判断を元に、病院間で協力し、何処でも最適な医療を受けることが出来るようになります。全国的にも、県全体でこのような医療連携システムを構築しているところは少なく、医療におけるICT利活用の今後のモデルとも考えられています。

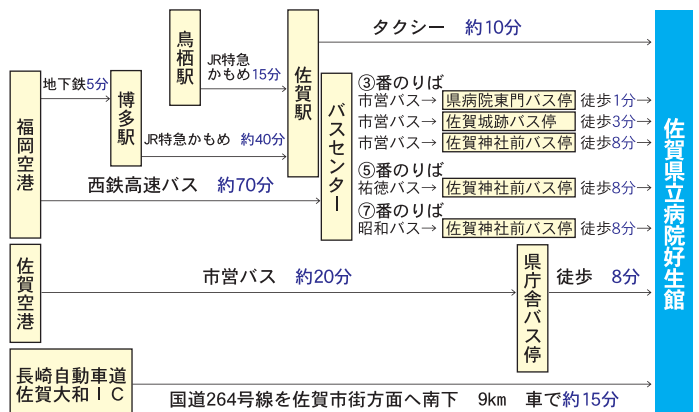
患者の皆様にも、医療機関にもそれぞれメリットのある地域医療連携に活用できます。ぜひたくさんの方の診療所の先生方にご利用いただきたいと思います。参加をご希望や、さらに説明をご希望の医療施設がございましたら、医療情報部までご連絡ください。

内線：2998 担当：竹村



平成22年度採用医師一覧表（医員を除く）

診療科目	氏名	顔写真	専門分野	診療科目	氏名	顔写真	専門分野
内科	山口 太輔		消化器内科	麻酔科	井上 克一		麻酔科一般 日本内科学会認定医 日本麻酔科学会専門医 日本救急医学会専門医
	出身大学 佐賀大学 医学部	富永 直之			消化器内科	田中 学	
出身大学 佐賀大学 医学部	浦田 雅子		消化器外科 日本外科学会専門医		山口奈央子		麻酔科一般
外科	古賀 浩木		消化器外科	小児科	小林 育子		アレルギー 日本小児科学会認定医
	出身大学 佐賀大学 医学部	山田 典子			呼吸器外科 日本外科学会認定医・専門医 日本胸部外科学会・専門医 日本循環器学会・専門医 呼吸器外科専門医	溝口 達弘	
	出身大学 佐賀大学 医学部	佐々木宏介		膝関節・肩関節・外傷一般 日本整形外科学会専門医	脳神経外科	緒方 敦之	
出身大学 九州大学 医学部	井口 貴裕		整形外科一般	産婦人科		安永 牧生	
整形外科	田中 秀弥		心臓血管外科一般 日本外科学会専門医	泌尿器科	諸隈 太		泌尿器科全般 日本泌尿器科学会認定医専門医・ 指導医
	出身大学 佐賀大学 医学部	川野 倫作			放射線科一般	杉本 昌顕	
心臓血管外科	出身大学 九州大学 医学部						
放射線科	出身大学 九州大学 医学部						





【豆知識】

知って得するお薬の話

薬剤長 奥平 献

季節はずれの新型インフルエンザの話です。タミフルという薬はご存知だと思います。タミフルはインフルエンザウイルスに直接作用して症状を抑えます。こういう治療を「原因療法」と言います。この時、一緒にもらった解熱剤での治療を「対症療法」と言います。「予防接種」をされた方も多いと思います。

まず、タミフルですが、5日分処方されます。必ず5日間服用してください。症状が治

まってもウイルスはいるそうで、家族や身の回りの人のためにお願いします。解熱剤ですが、必ずしも服用する必要はありません。熱があっても気にならず、体力のある方はむしろ服用しないほうがよい場合があります。ウイルスは熱に弱いのです。さらに、体内の酵素の働きもよくなります。最後に予防接種です。実は今回書いたのは、この点が強調したかったからです。インフルエンザの予防接種は半年しか効きません。つまり、昨年接種された方は、万が一、新型インフルエンザの第二波の流行が起こったら、無防備だということです。毎年インフルエンザの予防接種を受けることをお奨めします。



新県立病院の施設整備計画の現状

— 県民の皆様が満足できる病院の建設を目指して —

副館長 兒玉 謙次
新病院建設部

県立病院好生館は、施設の老朽化、狭隘化に加え、より良質で高度な医療の提供を目指して、平成18年3月、佐賀市嘉瀬町への移転新築を決定しました。

約6万㎡の敷地に、病院棟、研修・宿舍棟、院内保育所を設け、平成24年度中の開院を目指して準備を進めています。現在、移転予定地では、造成工事を行っており、今夏の造成工事完了後には、病院棟の建築工事に着手する予定です。

新病院は、がん診療、循環器病診療、救急医療を3本の柱にした診療体制の充実を図るほか、施設整備等に、以下のような特徴を備える予定です。

- ①患者にとって、より快適な環境の整備
 - ・プライバシー確保のための個室増床
 - ・コンビニ、ATM等の設置
 - ・患者家族用宿泊施設の整備
- ②ユニバーサルデザインへの対応
 - ・屋根付障がい者用駐車場の設置
 - ・全病室に車イス使用可能なトイレの設置
 - ・障がい者用トイレにオストメイトの設置
- ③「基幹災害医療センター」機能の充実
 - ・免震装置、屋上ヘリポートの設置
- ④診療機能の充実

- ・周産期母子診療のための施設整備
- ・集中治療病床や緩和ケア病床の充実
- ⑤地元や周辺環境への配慮
 - ・周辺住宅地の日照、通風等への配慮
 - ・15%以上の緑地確保
- ⑥働きやすい環境の整備
 - ・看護動線の短縮
 - ・職員食堂、休憩室、当直室、シャワー室等の整備
 - ・敷地内に職員宿舎、保育所の設置
- ⑦教育・研修施設としての環境整備
 - ・講堂、研修室、会議室のほか、学生控室、更衣室を整備
- ⑧省エネルギー、省CO₂への取組
 - ・屋上緑化、太陽光発電、LED照明、雨水利用等の採用
- ⑨将来への対応
 - ・増改築スペースの確保
 - ・病室の個室化に対応できる設計

今後も職員一丸となって、県民の皆様が満足できる新病院の建設に邁進いたしますので、ご協力とご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。

イメージ図：



外来医師一覽表

(平成22年6月1日現在)

区 分			月	火	水	木	金
内 科	総合内科	午 前	貞包 典子	榑藤 久司 貞包 典子	—	貞包 典子	榑藤 久司 貞包 典子
	呼吸器(肺)		松尾 綾子	富永 正樹	岩永健太郎 松尾 綾子	富永 正樹	岩永健太郎
	肝臓・胆道 ・膵臓		藤本 優 中下 俊哉	秋山 巧	川添 聖治 中下 俊哉	川添 聖治	藤本 優 秋山 巧
	消化器(胃・腸) 血液		富永 直之 松石 英城	緒方 伸一 桑原 伸夫	山口 太輔 松石 英城	緒方 伸一 桑原 伸夫	富永 直之 榑藤 久司
	腎臓・透析		高島 毅	中村 恵	—	高島 毅	中村 恵
	糖尿病内分泌		土居 隆志	—	土居 隆志 勝田 仁	—	土居 隆志
	神経内科		高島 洋	高島 洋	小杉 雅史	小杉 雅史	高島 洋
	腫瘍内科 (再診・院内コンサルト)		嬉野 紀夫 梅口 仁美	嬉野 紀夫 梅口 仁美	嬉野 紀夫 梅口 仁美	嬉野 紀夫 梅口 仁美	嬉野 紀夫 梅口 仁美
	感染症コンサルト		青木 洋介	—	—	福岡 麻美	—
外 科	消化器外科	午 前	(再来) 廣橋 喜美 (新患) 田中 聡也	(再来) 佐藤 清治 (再来) 古賀 浩木 (新患) 古賀 浩木	(再来) 古賀 浩木 (再来) 浦田 雅子 (新患) 廣橋 喜美 (新患) 大高 和真	手 術 新患者のみ (当番医)	(再来) 田中 聡也 (再来) 大高 和真 (新患) 廣橋 喜美 (乳腺) 小池 健太
	呼吸器外科		手 術	(再来) 櫻木 徹 (新患) 中西 香織	(新患) 山田 典子	(新患) 櫻木 徹 (再来) 中西 香織	手 術
	小児外科		生野 猛 高橋由紀子	手 術	竜田 恭介	生野 猛 高橋由紀子	手 術
眼 科	午 前	担当医新患のみ 手 術	古賀 隆史 下村由起子 高橋 峰光	荒木 理子 手 術	古賀 隆史 下村由起子 高橋 峰光	古賀 隆史 下村由起子 高橋 峰光	
産婦人科	(婦人科) 午 前	荒木 保博 安永 牧生 福田 耕一	荒木 保博 安永 牧生	手 術	荒木 保博 安永 牧生	手 術	
小 児 科	午 前	市丸 智浩 熊本 崇	小林 育子 古賀 大介	市丸 智浩 熊本 崇	市丸 智浩 荒木 薫	小林 育子 荒木 薫	
	午 後	アレルギー 外 来	予防接種	乳児健診 一ヶ月健診 アレルギー外来	アレルギー 外 来	予約外来	
	午後(時間外)	その日の担当が診察します。					
耳 鼻 咽 喉 科	午 前	手 術	宮崎 純二 恒富 今日子 横川 恭子	手 術	宮崎 純二 恒富 今日子 横川 恭子	宮崎 純二 恒富 今日子 横川 恭子	
皮 膚 科	午 前	武下 泰三 小林 真二	武下 泰三 小林 真二	武下 泰三 小林 真二	手 術	武下 泰三 小林 真二	
泌尿器科	午 前	徳田 倫章 狩野 武洋 諸隈 太	徳田 倫章 狩野 武洋 杉本 昌顕	徳田 倫章 狩野 武洋	徳田 倫章 狩野 武洋 諸隈 太	諸隈 太	
整形外科	午 前	野口 康男 力丸 俊一 佛坂 俊輔 前 隆男 佐々木 宏介	井口 貴裕(新患) 手 術	力丸 俊一 佛坂 俊輔 前 隆男 佐々木 宏介	手 術	野口 康男 力丸 俊一 佛坂 俊輔 前 隆男 井口 貴裕	
放射線科	消化管診断外来	午 前	—	—	梶原 哲郎	梶原 哲郎	—
	画像検査 部門外来		安座間真也 (眞武 邦茂) (北野 庸)	川野 倫作 (安座間真也) (北野 庸)	眞武 邦茂 (川野 倫作)	川野 倫作 (安座間真也)	川野 倫作 (安座間真也) (北野 庸)
	消化管造影		梶原 哲郎	梶原 哲郎	—	眞武 邦茂	梶原 哲郎
	放射線治療		渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄
放射線治療	午 後	—	徳丸 直郎	—	—	—	
脳 神 経 外 科	午 前	坂田 修治	岡本 浩昌	坂田 修治	手 術	坂田 修治 緒方 敦之	
精 神 科	午 前	原 富英 佐藤 仁哉	原 富英 佐藤 仁哉	原 富英 —	原 富英 佐藤 仁哉	原 富英 佐藤 仁哉	
循環器科	午 前	貞松 研二 田中 玄紀 吉富 有哉	吉田 敬規 古閑 靖章	吉田 敬規 池田 昌隆	心 カ テ	林田 潔 田中 玄紀 大場 香織	
心臓血管 外 科	午 前	手 術	内藤 光三 村山 順一	手 術 午前中のみ紹介・予約:榑木等	内藤 光三 村山 順一	手 術	
緩和ケア科	午 前	小杉 寿文 濱田 献	—	—	小杉 寿文 濱田 献	—	
麻酔科 (ペインクリニック)	午 前	休 診					
救命救急センター	藤田 尚宏、小山 敬、松本 康、藤田 亮、森塚 達也						